

実施段階での安全対策

1 危険箇所の再確認について

危険箇所については、実地踏査及び計画案を作成する段階で確認していますが、当日の様子を再度確認することが重要です。

当日の活動日の天候（活動日の数日前の天候も含む）などにより、安全であると考えていた箇所が変わってくることもあるので、必ず活動範囲や活動内容について確認をし、現地スタッフ及び周辺自治体からも場合によっては当日確認する必要があります。

また時期によっては、危険な生物の活動が活発になる場合もあるので、直前に行っている学校からの情報を事前に共有するなどがが必要です。

特にハイキング等の野外活動の場合には思わぬ危険箇所が発生している可能性があるため、必ず引率者が先導をすることを引率者間及び児童・生徒間で確認するようにしましょう。

天候などに応じて活動の中止や変更があり得ますが、活動内容を変更する場合にも上記の点には十分留意しましょう。

梅雨時期など悪天候が予想される場合には、活動内容について雨プログラムについても十分に検討してください。

2 参加者の状況把握について

(1) 指導體制の確認

管理下で行うことの認識

- ・児童・生徒の活動は、指導者（教員、区派遣の指導員、現地インストラクター）の管理下で行うことが原則であることを確認します。
- ・教職員が児童・生徒の行動を把握し、不測の事態には、迅速に対応ができるように体制を組むことが大切です。
- ・教職員の体制・配置については、前日又は活動前に担当者を中心に確認します。

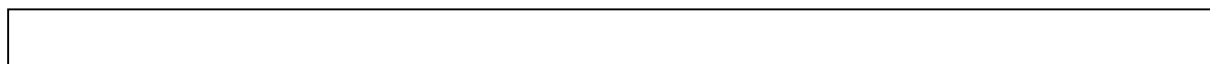
様々な隊形での活動

- ・学級単位で活動を行う際は、隊形が長くなることから、学級の最前列や最後尾、中間に指導者を配置し、児童・生徒の状況を把握します。（図1）
- ・登山・ハイキング等で列が長くなる際は、教員、区派遣の指導員、現地インストラクター等を、死角をつくらないように均等に配置することを原則とし、児童・生徒の安全を管理します。（図2）
- ・グループ活動を行う際は、児童・生徒の活動範囲を限定しそれ以外に児童・生徒が出ないように事前指導を徹底するとともに、1グループに1名の教員、区派遣の指導員、現地インストラクターを配置し、全グループの活動を把握するようにします。

図1 (児童・生徒、 指導員)



図2



(2) 児童・生徒の健康状態の確認

活動前までに行う確認

- ・ 児童・生徒の睡眠・排便・食欲等の状態を把握し、活動を行うかどうかについての判断を行います。
- ・ 朝食後は、排便の時間を確保し、排便を促すようにします。
- ・ 予定の活動に参加させない場合は、その旨を予め保護者に伝えることともに、看護体制等についても合わせて伝えておきます。
- ・ 様々なかかわりの中で心の状態が不安定になっている児童・生徒に関しても、状況を十分に把握し、活動内容を無理強いしないようにします。

活動中に行う確認

- ・ 活動中においても、児童・生徒の歩き方、顔色、友達とのかかわり等に注意を払い、休息やトイレタイムを適宜とり、その都度、参加児童・生徒全員に引率教員が声をかけて、体力面に違和感がないことを確認します。
- ・ 管理職、養護教諭又は看護師と連絡をすぐに取りれるようにするとともに、細かなことでも連絡をその都度入れるようにします。

3 携行品について

自然宿泊体験教室では、それぞれの活動に適した服装や装備が必要となります。事故などを未然に防ぐためにも携行品の確認し、児童・生徒に指導を行ってください。

【児童・生徒】

装備品	備 考	チェック
リュックサック	片方の肩にかけるタイプは疲れやすく、両手がいづらく適さない。	
靴	履きなれたもの。長期間使用していないものは避ける。紐タイプのものは事前に要確認。	
雨具 折りたたみ傘	雨具は、上下に分かれているセパレート型が基本。 傘はがあると便利、平地などで使用。	
帽子	日よけ用のツバのついたもの。 蜂は黒い色に寄ってきます、明るめのもの。	
下着	ナイロンやポリエステル製の吸収・発散性のあるものがよい。	
シャツ	夏は吸収・発散性があるもの、冬は保温性があるもの。 蜂は黒い色に寄ってきます、明るめのもの。	
ズボン	伸縮性、速乾性があるもの。長ズボンが望ましい。 ジーンズは適せず。蜂は黒い色に寄ってきます、明るめのもの。	
靴下	くるぶし丈のものではなく、足首を保護できる長さ。	
防寒着	季節・場所により朝晩は冷え込みます。フリース・セーター等。	
手袋	軍手でも可。	
しきもの	昼食時・休憩時に使用する。	
タオル	緊急時に止血としても利用が可能。	
ティッシュ	場所によっては常備されていないトイレもある。水溶性が望ましい。	
水筒	水分補給は必須。1リットル程度入るもの。	
非常食・行動食	チョコ・あめなど。	
日焼け止め	無香料のもの。香料があると虫が寄ってくる。	
ビニール袋	ゴミ袋・急な雨からバックを守る・汚れ物を入れるなど。	
虫よけ	スプレータイプ・携帯タイプどちらでも可。	
熊よけ鈴	コースによっては必要。	
時計	グループ内、担当者だけでも可	
健康保険証の写し	医療機関に受診する際に必要。	

学園から貸し出しを行っております、ハイキング等の際には必ず携帯をお願いします。

【学園から貸し出し】

装備品	備 考	所持者
トランシーバー	学園に準備。事前に使い方、チャンネルを決定する。	
ラジオ	学園に準備。地震等の情報は得やすい。	
ポイズンリムーバー	使用方法を必ず事前に確認する。	
携帯用冷却材	学園に準備。ケガ等患部を冷やす。	
携帯用カイロ	学園に準備。	
クーラーボックス	学園に準備。	
簡易テント	学園に準備。トイレ等で使用。	

引率者は、様々な緊急事態を想定して携行品を準備します。また誰が何を持っているかを引率者全員で把握しておく必要があります。

ポイズンリムーバーについては、使用方法を再確認します。

装備品	備 考	所持者
地図・コース資料	事前に確認しておく。	
緊急連絡先一覧	有事の際に迅速に連絡が可能となるように準備する。	
ガムテープ	衣服の破れ等の修繕に便利。	
救急品	絆創膏・消毒液・ガーゼ・包帯・予備薬(胃腸薬、頭痛薬、かぜ薬、他)などを一セットにしておく。	
水	ケガ・虫刺され等の傷口の洗浄、非常用の予備水。	
携帯電話	通信手段は複数確保する。緊急時に備えインストラクター・看護師等とも連絡先を交換する。(終了後には個人情報なので消去することを忘れずに) スマートフォンであれば、アプリが使用でき、現在地・方角等も確認で可能。緊急時の対応のため不要な使用はせず、充電も忘れずに。	

携行品については、対象者に適しているか、不具合はないかを点検しておき、緊急用の装備、救急箱も用意します。また、使用方法についても基本的にはすべての引率者が熟知しておきます。



4 引率者の役割分担・緊急時の対応についての再確認について

(1) 引率者の役割分担

校内での体制

- ・実施計画作成の段階から、活動毎に役割分担を明確にし、各活動場面での責任の所在を明らかにします。サービスエリアの駐車場での配置から、登山・ハイキング、夜間活動中の分担まで細かく決めます。
- ・参加者の情報（体力、能力、行動、態度、意識、感情等）を把握し、引率者全員で共有する。必要に応じて、同行する看護師と情報を共有します。
- ・現地で事故が発生した際のシミュレーションを活動場面毎に行い、連絡方法や対応等についての確認を行います。
- ・現地で事故が発生した際の、校内での対応（保護者への連絡、マスコミ対応等）について確認を行います。

現地指導員等との連携

- ・当日使用するルートや活動場所についての情報提供を現地指導員から受け、実施に関しての協議を行います。
- ・危険箇所や用具・装備の確認を現地指導員と協力して行い、場合により、現地指導員からレクチャーを受けます。

(2) 緊急時の対応

緊急時の教職員の対応

- ・どの場面で、どの指導者が担当する活動で緊急事態が発生するか分からないことから、全教職員が緊急時の対応を十分理解しておきます。

連絡体制の確認

- ・医療機関、警察、宿泊施設、学校、教育指導課等への連絡方法について確認します。
- ・発生した事故については、宿泊施設の方と連携をとり、搬送等の対応をとります。
- ・警察、病院、学校、保護者等、各方面への連絡については、誰が誰に連絡をするのか等について確認しておきます。